

## 01 昭和から残した(副)産物

### I 今の東京、昔の江戸

千代田区に張り巡らされている河川たちは今の東京において、すっかりと「裏」の表情を見せていること、その風景を躊躇いもなく失っていくことによる(副)産物をなにもとするのは、街の風景を取り戻すためと言えるのだろうか。

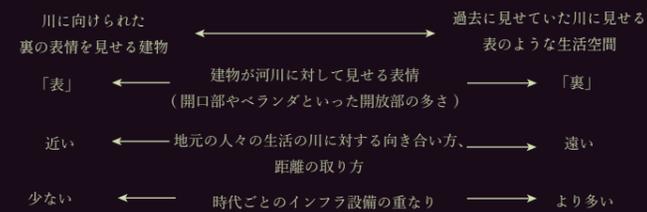


### II 昔と今を重ねて見えてくる面影

#### 面影の定義

街を歩いているときに見えてくる江戸時代といった懐かしさを彷彿とさせるもの、特に、川に対して生活の空間をおいていた時であった、実際に見える空間であったり、そこにあるものを間接的にして、想像上で見える空間であったりするものが現代にのみがえってくる。それを作り出している要素を面影とする。

このような面影要素を抽出した形というのは郷愁を持つ建築となる。そして、この建築はかつて江戸時代にあったような川に対する表向きのような表情を見せてくれるのではないかと考えた。



### 面影からできた建築

### 郷愁を持つ建築

河川に対して裏向きの表情を持ちながらも表向きに見せる建築となっていく。

## 02 外郭 - 常盤橋門跡 - に残る面影

地上における首都高速道路が2040年度に全面撤去される。

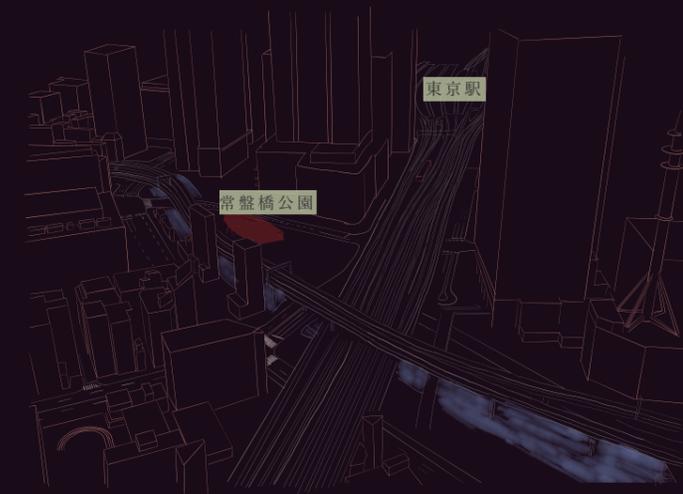
敷地とした場所は東京駅近くの公園となっている。

その地下化後に常盤橋門跡がある常盤橋公園及びその周辺において図書館を建てる計画とした。

### ～江戸時代



### 明治時代～現代



1858年



1921年



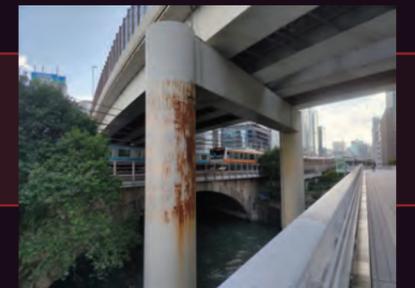
1947年



1964年



1990年



2025年